

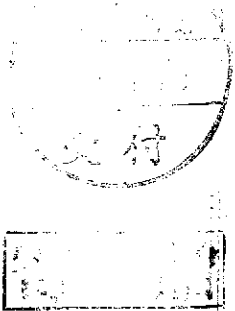
ほーはーどり

我孫子野鳥を守る会

NO. 30

1979年

9-10月号



◎ 行事案内

◇ 手賀沼カウントと探鳥会

月日 9月9日(日) 雨天中止

集合 我孫子市役所 午前9時

担当 畑、飯泉

秋の渡りの季節です。今年にどんな旅鳥に出会えるか、昨年と一昨年はミサゴが出ています。

鳥合せは、今月から上沼となります。

はじめての参加、歓迎します。

午前中で終了します。

◇ 秋の野草を探る会

月日 9月23日(日) 雨天中止

集合 我孫子市役所 午前9時

持物 弁当と飲物 手帳(メモ帳)

服装 8kmほど歩きます。また、ときには雑草の中に足をふみいれます。

担当 佐久間 渡辺

手賀沼のほとりを沼南町柳戸方面へ向けて探草します。サンバを訪ねたあたりで、春はキンラン キンラン等が咲いていました。

探草会ですが、鳥でも虫でも観察して下さい。帰りは、柳戸から柏までバスを利用する予定です。

◇ 伊良湖岬探鳥会

月日 10月5日夜~7日(金・土・日)

集合 5日 東京発23時28分(9番線)入線22時46分)の大垣行最前部乗車
豊橋着6日4時43分。

宿泊 愛知県伊良湖岬 民宿五月堂

(電話 05313-5-1048)

行程 6日 豊橋~伊良湖岬(タクシー)

早朝のタカ渡りを観察、附近を探鳥。

7日、早朝、壮大なタカの渡りを見て、一応解散、希望者は汐川干潟で、シギ、チドリをみて豊橋~東京。

費用 我孫子~豊橋 3,500円

豊橋~伊良湖岬 タクシーとバス

で往復 3,000円

帰路は新幹線特急料 2,500円

宿泊 4,500円位

計約17,000円

担当 志賀

伊良湖岬は、鳥達の渡りのコースにあたり、上空を何百と渡るタカの群れ、岬を飛び立つヒヨドリの渡り、その他の鳥にも出会える、すばらしいところです。また 汐川のシギ、チドリも有名な場所です。

申込先 宿泊の関係で予約を必要とします。

TEL 0471-91-7206

志賀鉄雄まで申込んで下さい。

(注) 雨天でも出発します

◇ 手賀沼カウントと探鳥会

月日 10月14日(日)雨天中止

集合 我孫子市役所 午前9時

担当 飯泉、畑

鴨の渡来がはじまりました。換羽中の鴨の識別練習は如何でしょう。午前中で終わります。

他、キジバト、ヒバリ、ツバメ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、セッカ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、カケス、ハシボソガラス、コジュケイ。

◎行事報告

○ 手賀沼カウント

調査日時 54・4・15(曇)
9時～12時

<参加者> 稲垣 茂、畑 幸正、道子
久子、天野博史、庄崎富佐子、中尾照平
木村 稔、小野勝義、志賀鉄雄、鉄也、
佐久間俊行、陽子、浅間 茂、飯泉 仁
高橋敏夫、松本克博 以上17名

鳥 種	上沼	下沼	計
カイツブリ	32	17	21
ゴイサギ	4	3	17
ダイサギ	10	4	11
チュウサギ	1	0	1
コサギ	5	2	1
アオサギ	1	0	7
マガモ	1	0	1
カルガモ	87	121	208
コガモ	233	180	413
オカヨシガモ	8	6	14
オナガガモ	3	0	3
ハシビロガモ	185	49	234
キンクロハジロ	3	0	3
ミコアイサ	1	0	1
バン	1	4	5
オオバン	21	67	88
タシギ	3	0	3
ユリカモメ	31	53	84
計	630	506	1,136

調査日時 54・5・6(晴)
9時～12時

<参加者> 畑 幸正、佐久間俊行、浅間 茂
庄崎富佐子、志賀鉄雄、鉄也、松本克博、
小野勝義、飯泉 仁、西城 猛、木村 稔
坂巻忠雄、高橋敏夫、谷口尚武、正子、
高地愛子外2名 以上18名

鳥 種	上沼	下沼	計
カイツブリ	14	7	21
ゴイサギ	4	13	17
ダイサギ	6	5	11
チュウサギ	0	1	1
コサギ	1	7	8
アオサギ	0	1	1
カルガモ	18	49	67
コガモ	0	48	48
オナガガモ	0	2	2
ハシビロガモ	0	12	12
キンクロハジロ	0	2	2
バン	1	1	2
オオバン	16	14	30
コチドリ	0	1	1
ムナグロ	0	24	24
キョウジシギ	0	1	1
アジサシ	0	1	1
コアジサシ	0	25	25
オカヨシガモ	0	1	1
計	60	215	275

他、アオバズク、オオヨシキリ、カワラヒワ、ムクドリ、スズメ、セッカ、コジュケイ、ヒバリ、ハンボソガラス、ツグミ、ツバメ、ホオジロ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ヒガラ、センダイムシクイ、コゲラ、キジバト、ヒヨドリ、カケス、アオジ、(下沼班の探鳥地が広くなりました。)

調査日時 54・6・10(晴)
9時~12時

<参加者>西城 猛、高橋敏夫、小野勝義、佐久間俊行、飯泉 仁、庄崎富佐子、木村 稔、志賀鉄雄、鉄也、中尾照平、畑 幸正 以上11名

鳥 種	上沼	下沼	計
カイツブリ	20	12	32
ゴイサギ	9	31	40
アマサギ	1	0	1
ヨシゴイ	0	2	2
ダイサギ	1	5	6
チュウサギ	1	0	1
コサギ	7	18	25
カルガモ	15	16	31
キンクロハジロ	0	1	1
(アイガモ)	0	1	1
バン	1	0	1
オオバン	41	20	61
コアジサン	2	27	29
計	98	133	231

他、カッコウ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、ムクドリ、セッカ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイ、スズメ、オナガ、ハンボソガラス、モズ、サシバ。

調査日時 54・7・8 (晴)
9時~12時

<参加者>伊藤礼子、赤尾、完、中尾照平、谷口尚武、正子、匡、桂、坂巻忠雄、畑 幸正、飯泉 仁、西城 猛、池田明、浅間 茂、中沢澄子、志賀鉄雄・鉄也、松本克博 以上17名

鳥 種	上沼	下沼	計
カイツブリ	17	14	31
ヨシゴイ	0	2	2
ゴイサギ	3	5	8
アマサギ	0	1	1
ダイサギ	4	5	9
チュウサギ	0	1	1
コサギ	1	29	30
カルガモ	1	38	39
バン	0	4	4
オオバン	16	17	33
イソシギ	0	1	1
ユリカモメ	1	0	1
アジサシ	0	1	1
コアジサン	7	34	41
計	50	152	202

他、サシバ(3)、コジュケイ、キジバト、カッコウ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、オオヨシキリ、セッカ、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハンボソガラス。



○ 北アルプス白馬山麓探鳥会

79.6.29~7.1

新宿午前8時発あずさ3号で一行14名(女8、男6)、期待に胸弾ませ一路白馬山ろくへ。

6月というのにしばらく晴天続きで、ちよりどこの月末あたりが危いのではという危機を押えて「アラこの調子だと大丈夫みたいね」と励ましあっているうちに雨足が車窓をたゞき始める。そのうち「ナントカ線事故のため列車は塩尻から松本までバスの振り替え輸送」とのアナウンス。雨の塩尻の町をバスで通り抜けながら、五月の経井沢も雨だった。

コンチクショウ!

松本から大糸線へ。ここはいつ来ても、緑と土がすぐそこで匂っている。霧雨の中、窓をあげ、全身で緑と土の匂いを嗅ぐ。

白馬大池駅からタクシーで根池ヒュッテへ。このヒュッテのすぐ前が標高2000mの高層湿原、根池自然公園だ。今夜の宿、明かり取りの小窓とランプの小部屋に感激して、早速、自然園に出てみる。今だ雨模様。ここは湿原植物の宝庫でもある。木道のわきには水芭蕉リュウキンカ、リュウキンバイ、1時間弱の遊歩道の途中には、さらに木立あり、谷あり、川あり、風穴あり、ミニミニ雪渓まであるから、キヌカサソウ、シラネアオイ、エンレイソウ、イワカガミ、チングルマ、イワイチョウ……と後で植物図鑑を拡げること余念がない。鳥は、雨のせいか、ほとんど姿は見かけなかったが、ウグイスだけはどこでも鳴き、時折りヒンタララとコマドリの声が響き、耳を澄ますとカッコラ、ツツドリ、サンシウクイが鳴いている。

翌くる30日の朝、夜行で来た若い千葉さんに一同喜ぶ。しかし、まだ、雨は止まずこのまま白馬村、神城の民宿伊藤さん宅へ直行することになる。伊藤さん宅へ荷物を置き雨間を縫って青木湖畔へ。

イカル、ウグイス、キセキレイ、エナガ、コゲラの声を確認しながらも、目立つ鳥影はなく、途中から再び雨で引き返す。

白馬村村会議員の当主伊藤さんと、火の入った囲炉裏を囲み、心尽くしのお茶と梅干しが身に沁みる。

じっとしてられない人は、小雨の中、又三三五五と戸外へ出て行く。私は玄関の土間にプロミナを据えて外を見ていたけれど、ツバメとオナガとカラスだけ。三神さんがオオルリを見たと言って帰って来る。

あくる7月1日も雨。タクシーで石仏の千国街道を徐行し、大町の山岳博物館、慧高の碌山美術館とわさび田を見学。

清流がまぶしいわさび田の両側の溪谷はみるからに鳥がいそいで、確かに鳴いている。オヤ、溪谷にかゝる電線の上で、ビッコロルル……とさえずり始めたのはキビタキだ。

後は又、雨の中を松本へ。

記 庄崎富佐子

<認めた鳥> 根池で、ウグイス、コマドリ、コルリ、メボソムシクイ、キセキレイ、ハシブトガラス、ホトトギス、カッコウ、ツツドリ、アカハラ、イワツバメ、ツバメ、ミンサザイ、ヒガラ、計14種。

白馬村内山~青木湖で、スズメ、オナガ、イカル、ウグイス、キセキレイ、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、キビタキ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、クロツグミ、オオヨシキリ、ツバメ、キジバト、オオルリ、メボソムシクイ、ホオジロ、ハシボソガラス、カワラヒワ、サンシウクイ、トビ、カルガモ、ヒヨドリ、ムクドリ、ヨタカ、コゲラ、センダイムシクイ。計29種

<観察した植物> 根池で、サンカヨウ、スダヤクシユ、シラネアオイ、コイワカガミ、ミヤマキンバイ、コバイケイソウ、ハクサンコザクラ、キヌカサソウ、リュウキンカ、イワイチョウ、チングルマ、ミズバシユ、

マイズルソウ、ゴゼンタチバナ、ツマトリソウ、ユキザサ、ヤグルマソウ、エンレイソウ、モウセンゴケ、ミヤマシ。ウブ、オオイトドリ、ヒメカンゾウ、オオシラビソ、ダケカンバ、アサノハカエデ、ミネカエデ、オガラバナ、ウラジロナナカマド、ミヤマカタバミ、以上29種。

白馬村内山〜青木湖で、カラコギカエデ、イタヤカエデ、ウリハダカエデ、ウリカエデ、ハウチワカエデ、コハウチワカエデ、ニガキキハダ、サクラバハノキ、ヤマハノキ、ヤシヤブシ、クロモチ、カリン、ヤマボウシ、ミツバウツギ、ミズナラ、ナラカシワ、クルミ、コナラ、リ。ウブ、ウツギ、ノリウツギ、

ヒルムシロ、シオデ、ツキミソウ、ウツボグサ、イワカガミ、ヒヨドリバナ、リボウシ、ヨツバムグラ、カワラマツバ、クララ、オドリコソウ、キセウダ、ガマツミ、トウダイグサ、クモトリソウ、ミヤコグサ、オカトラノオ、オミノゲシ、ニンドウ、ノイバラ、スイカツラ 以上43種。

<参加者> 渡辺波江、森谷幸枝、中 弘、中 袖子、三神鶴吉、三神淑子、千葉一也、和知隆作、庄崎富佐子、大槻いずみ、小瀬木かつ子、金湖初枝、渡辺義雄、畑幸正 以上14名

白馬探鳥行

梅池自然園

八ッ橋の歩を止めしむ遠き駒鳥
万年雪こゝに若葉のななかまど
伏目なる白根葵や梅雨ふかき
網笠草その一輪の透きとほり

梅池ヒュット

配られし洋燈四つや梅雨の部屋

白馬村

黄びたきに傾く傘や梅雨の森
野仏の耳活き活きと梅雨の集
杉の秀のこゑ大瑠璃となり降れる

伊 藤 家

山桑の花真伺ひに夏館

注 ヤマボウシは当地方にてヤマグワといえる由御亭主に伺う
うぐひすを遠く夏炉に請せらる

中 ひろし

○ 富士御中道探鳥会

7月14日 7時に我孫子駅に集合し、新宿高速バスターミナルで三神さん夫妻と落ちあい計10名で8時45分発の中央高速バスに乗る。11時15分富士5合目着、昼食後奥庭に向かう途中霧の中でルリヒタキ・メボソムシクイが歓迎の心をいっぱい表わしてさえずってくれる。去年と同様水飲み場には次々と華麗なる鳥達が姿を表わしてくれる。先客和知さん、千葉さんを交えて次から次へと姿を見せてくれる鳥達に見とれる。夕食中志賀さん親子到着。さらに話に花が咲く。ヨタカの声を手ラリと聞き寝床に入る。夜自動車組松本さん、飯泉さん着。翌朝ホンガラスを見に行く途中見慣れた超望遠レンズ、まさか木村さんでは？が本当に木村さんが姿を表わす。ルリヒタキの雌は巢に人が近ずくとヒッヒッガッガッと警戒音を出す。さらに興奮するとガッガッと鳴くようである。水飲み場でじっとしていた方がよいらしい。朝から水浴びにくる。

メホン、カヤクグリ、ウソ、ルリヒタキ、キクイタダキ、ヒガラ、ウグイス、キジバト、コガラ、ビンズイ、ミソサザイ、ホンガラス等。中にはめったに姿を見ることができないものなどじっくり観察することができた。富士山は変わった植物は少ないが、植生的にはおもしろい山である。普通の山ではハイマツが見られるところにカラマツがあるのである。御中道がちょうど森林限界になっている。奥庭から眺めると本で学ぶ植物群落の遷移過程を眼前で観察することができる。奥庭と同じ高さの所ではシラビソ・コメツガが生えているのにここではカラマツが見られる。これは奥庭が比較的新しく多分寄生火山でまだ遷移の途中なのであろう。

朝食後御中道を歩く。途中珍獣オコジョが姿を見せ愛嬌をふりまいてくれた。鳥の声を聞き、高山植物を観察しながら5合目1時に

出発帰路につく。

記 浅間 茂

<認められた鳥>

ハシブトガラス、ハシホソガラス、ホンガラス、カケス、ウソ、コガラ、ヒガラ、キクイタダキ、メボソムシクイ、ウグイス、アカハラ、マミジロ、ルリヒタキ、カヤクグリ、ミソサザイ、ビンズイ、イワツバメ、ヨタカ、アマツバメ、キジバト

<参加者> 中 弘・祐子、浅間茂、飯泉仁、中尾照平、米子、三神鶴吉・淑子、千葉一也、高橋敏夫、和知隆作、西城猛、小野勝義、志賀鉄雄・さやか・鉄也、松本克博、木村稔、

以上18名

○ 手賀沼カウント

調査日時 54・8・5 (ウス曇)

9時~12時

<参加者>小野勝義、松本克博、畑 幸正、赤尾 完、飯泉 仁、志賀鉄雄・鉄也、中尾照平、坂巻忠雄、高橋敏夫、小泉陽一、茂木とみえ、宗一郎 以上13名

鳥 種	上沼	下沼	計
カルガモ	2	66	68
カイツブリ	22	35	57
ヨシゴイ	1	8	9
ゴイサギ	3	7	10
アマサギ	0	1	1
ダイサギ	8	26	34
チ。ウサギ	1	0	1
コサギ	33	26	59
バン	1	1	2
オオバン	16	8	24
ユリカモメ	2	1	3
アジサシ	0	1	1
コアジサシ	22	62	83
計	110	242	352

他、サンバ(1)、ヒバリ、カワラヒワ、ツバメ、ホオジロ、セッカ、モズ、ヒヨドリ、ムクドリ、ベニスズメ、キジバト、スズメ、ハシボソガラス、オナガ、コジュケイ、オオヨシキリ

イソシギ、ソリハシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシヤクシギ、ウミノコ、アジサシ、コアジサシ、キジバト、ツバメ、ハクセキレイ、セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス

計30種

○ 相模川河口探鳥記

'79・8・12

我孫子を出発したときは7人だった。柏で飯泉君が、茅ヶ崎で先着の三神さんがと増えて9人。浜見平で飲物やパン等を補給して、干潟をわざず。国道を越して終末処理場沿いの砂道は汗のでる道だった。みたことのある車があった。中をのぞいて見る。鳥の絵のある紙コップ、木村さんの車ということになった。松林を通過して干潟に出る。木村さんが、愛機を肩に現われる。子供さんは、海でつりをしているとか。更にプロミナーの視界に入った砂丘に志賀父子の姿あり。これで出発時の倍に近い同勢13名となった。

干潟は引潮の最中、シギチには慣れた人が多くて、めいめい好きな所にプロミナー

ダイシャク・ホウロク、不均合をほど長く下方に湾曲した嘴、重そう、とんでもない、好物のカニを採る特製の嘴。

オバシギ、昨秋小櫃川で32羽の群に感激したっけ。

エリマキシギ、ニリマキをどこにおいてきたのかねー。

アジサシとコアジサシの識別勉強。

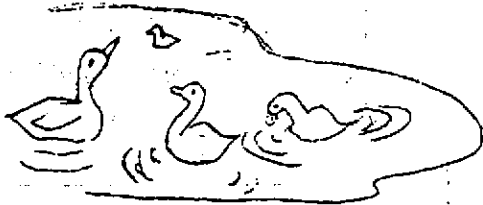
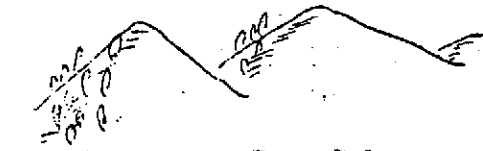
去年はシギチ9種、今回は15種、時間はたっぷり、ほどよい風、晴れだがカンカン照りでなく、曇りが苦にならなかった。

15時30分、帰路につく。

記 高橋

<認めた鳥> チュウサギ、コサギ、トビ、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ムナグロ、キョウジョシギ、トウネン、オバシギ、ミビシギ、エリマキシギ、キアシシギ、

<参加者> 浅間 茂、小野勝義、畑 幸正、志田十九次郎、佐久間俊行、志賀鉄雄・鉄也、高橋敏夫、飯泉 仁、三神鶴吉、中尾照平、木村 稔 外1名 以上13名



◎ ホタル養殖へのいばらの道

夏の風物誌として、子供さんから老人達にまで親しまれて来たホタル観賞会。今年は7回目であり、参加者は200名を超えました。

大変盛況でしたがこれに反し、飛び交うホタルの数も意外に少なく、観賞に訪れた大勢の方に、ご心配をかけ、お詫びをしなければなりません。

高野山ホタル池は昔から、手賀沼沿岸では一番よい環境に恵まれた好条件の場所でした。

しかし最近周辺が埋立てられ、家屋が立ち、悪条件が重なるばかりです。今後の環境破壊が心配です。

今日までの、ホタル養殖の過程を顧みますと、今年の発生率は最低を記録し、不振の原因はいろいろあるように感じられます。そのいくつかをあげてみましょう。

(1)昭和48年頃は自動車の交通量も少なかったが、今では車の数も当時の何倍かに増えている。それによる排気ガスの影響も多分にあると思われる。

(2)ホタルの幼虫の天敵サリガニによる被害が著しく、その駆除に頭を痛める。「ウケ」にサリガニの好む蚕のサナギを入れ、水路に置くが、その「ウケ」を持去る心ない人がいる。

大変残念だ。

(3)昨年手賀沼下水道工事が昼夜兼行で進められている。屋上に蛍光灯が輝き、その光がホタル池周辺に達し、目がまぶしい程だった。ホタルは暗い夜でないと、飛びにくい。

さらに、地下10米にヒューム管の敷設工事が着々と進められている。そのためか、地域一帯の水田の水は枯れ、二年続きの早魃が追打ちをかけ、水田に自然発生したヒメモノアライ貝や、ホタルの幼虫が殆んど消えた。昨年から今年にかけて、以上の様な悪条件が重なり大変な年でした。

これから一層努力をし、この苦難を乗り越え来年のホタル観賞会には、沢山のホタルが皆さんの目に七色の虹のような美しい姿を見せてくれることと信じます。

今後も皆さんのご指導と、ご協力をいただきたいと思います。

渡辺義雄

鳥だより

サシバ (1)	6・10	手賀下沼
(3)	7・8	
		以上カウントで
モズ (高鳴き)	7・29	手賀下沼
		飯泉 仁
カワセミ	8・13	手賀下沼
		浅間 茂

例年行ってきた小櫃川河口は、汐の関係で本年は休みとしました。鳥だよりをお寄せ下さい。

T・T

我孫子野鳥を守る会会報 第30号

発行人	渡辺義雄	TEL 82-0521
住所	我孫子市高野山556	
振替	東京-5168 我孫子野鳥を守る会	
会費	年額 1,500円	